

はじめに

巷では入試問題の易化がささやかれています。「関西私大の雄」と称されている関関同立大では、なかなか骨のある入試問題が相変わらず出題されています。

そこで、近年の入試の状況や受験生の動向にあわせて、これまでの「関関同立大日本史」を全面的に見直し、受験生の「関関同立大の傾向をふまえた対策がたてられる問題集を！」という要望に応える、より丁寧でわかりやすい問題集をつくることにしました。執筆者は、毎年、関関同立大の入試問題の分析を行い、河合塾の様々な模試や「関関同立大プレステージ」などの作成にたずさわっているプロです。いままで蓄積してきた河合塾の問題分析の成果をいかして、関関同立大攻略に必要な問題を選び、その解法への道筋を解説しています。この問題集の特色は、以下の四つです。

- (1) 関関同立大の傾向は何か、という問いに答えるために、各大学別に出題傾向を分析し、その対策を示すとともに近年の「頻出テーマ一覧」を配置しておきました。
- (2) 関関同立大の入試問題のレベルをふまえ、合格に必要な知識を問題解説や囲み枠の整理、テーマ解説に徹底的に盛り込みました。関関同立大でも毎年若干の難問・奇問がみられますが、こうした問題に幻惑される必要はありません。解説では、今後の出題と関連するかどうかを判断した上で、説明の取捨選択を行っています。このレベルの見切りが本書の特色の一つです。
- (3) 受験生の弱点の一つに時代感覚の欠如をあげることができます。やみくもに歴史用語の暗記にはしり、その用語のバックボーンを考えようとしません。これではいくら用語を覚えても、得点には結び付きません。そこで本書では、演習問題を解き、解説を読み進んでいくうちに、自然にその時代がみとりできるように構成しています。また、問題内容と密接に関連するテーマ史的整理をできるだけ多くとりいれています。しっかり読んで、膨大な歴史用語の海に乗りだす際の指針にしてください。
- (4) 随所にコラムをおいています。さまざまなエピソードを通じて、日本史の面白さを味わってください。裏話・表話こもごも、「ヘー」と思っただけで読んでいるうちに知識が身につくかも…

以上の特色や次頁の利用法をよく理解して、楽しみながらこの問題集に取り組んで下さい。

著者一同

本書の利用法

- (1) 各大学の出題形式・出題傾向・対策・頻出テーマ一覧を掲載しました。

出題形式…大問数と小問数・配点・試験時間、および入試問題の形式を示しています。受験する大学の入試問題の分量や形式（マーク式・記述式など）を念頭において、本番での時間配分の日安にしてください。

出題傾向…時代・分野の出題比率などを示しています。特に出題比率は、各大学の特色とも関係しますので、学習を進めていくときの指針にしてください。

対策…河合塾の関関同立大プロジェクトチームが蓄積してきた分析力をふまえた、受験生に伝えるメッセージです。このメッセージを念頭において学習方針を立ててください。

頻出テーマ一覧…繰り返し出題される傾向のあるテーマをとりあげています。これらのテーマを意識して問題演習に取り組むとともに、最終チェックに活かしてください。

- (2) 本書は「問題編」と「解答・解説編」からなっています。

問題編

- ①原則として関関同立大の入試問題をそのまま採録しました（ただし、問題構成や紙幅の関係から一部省略・改作したところがあります）。
- ②各問題の難易度を☆印で示しています。
☆はやさしい問題、☆☆は標準的問題、☆☆☆は難しい問題であることを示しています。これは関関同立大の中での相対的な難易度です。この難易度は、☆と☆☆はとりこぼしの許されない問題と読みかえることができます。関関同立大ではこのレベルの問題が圧倒的に多く、ここでのミスが致命的となるので十分に注意して取り組んでください。
- ③各問題の後に付した数字〔例 解答・解説 142〕は、その問題に対応する「解答・解説編」のページ数です。

解答・解説編

- ①「解答」の下段の「ポイント」は各問題のテーマを攻略する際の指針です。
- ②各問題に関連する重要事項の整理を囲み枠で掲載しています。おさえるべき事例をコンパクトにまとめているので、これをうまく利用し、第Ⅱ部の通時代テーマ史の整理とともに、入試直前の確認などに役立ててください。
- ③わかりにくい用語や概念については、適宜、右横に補足解説を付しています。これも読みながら知識を深めましょう。

目 次

はじめに
本書の利用法

出題傾向と対策 8

第 I 部

※タイトルの後の数字は問題編のページ。
()内は解答・解説編のページを示す。

1 原始・古代 18(2)

- 1 原始の生活と遺物 18(2)
- 2 原始・古代の墓制 21(5)
- 3 原始・古代の対外関係 23(7)
- 4 律令国家の形成 25(9)
- 5 律令体制の確立 26(11)
- 6 奈良時代の政治史 29(14)
- 7 律令国家の蝦夷征討 31(16)
- 8 桓武・嵯峨朝の政治 32(17)
- 9 藤原北家の台頭と摂関政治 33(18)
- 10 武士の台頭と院政 34(20)
- 11 古代の土地制度 36(22)
- 12 遣唐使 38(25)
- 13 古代の仏教 39(26)
- 14 飛鳥～天平期の仏教美術 42(28)
- 15 平安時代の文化総合 44(29)

2 中 世 48(32)

- 16 鎌倉幕府の確立 48(32)
- 17 承久の乱と執権政治 50(34)
- 18 鎌倉武士と農村 53(36)
- 19 元寇と得宗専制 54(37)
- 20 鎌倉幕府の滅亡・建武の新政・南北朝の合一 56(39)
- 21 室町幕府の職制 59(41)
- 22 室町時代の政争 61(42)
- 23 室町時代の史料総合 62(43)
- 24 中世における経済発展と民衆 64(44)
- 25 中世の一揆 67(46)
- 26 中世の日中・日朝関係 69(48)
- 27 中世の仏教 71(50)
- 28 中世の文化総合 74(53)

3 近 世 79(55)

- 29 戦国大名の分国経営と幕府政権 79(55)
- 30 太閤検地・刀狩令・バテレン追放令 82(57)
- 31 幕藩体制の確立 84(59)
- 32 農民統制と農民の負担 86(61)
- 33 キリスト教伝来～鎖国体制の確立 87(62)

- 34 文治政治と幕政改革 91(65) 35 江戸幕府の法令 93(67)
 36 農業の発展 96(69) 37 商業・流通の発展と貨幣・金融制度 97(71)
 38 交通の発達 99(73) 39 農村の変容と百姓一揆 101(75)
 40 江戸時代の儒学 103(78) 41 江戸時代の学問・思想 104(80)
 42 江戸時代の文芸 106(83) 43 近世の美術 107(85)
 44 藩政改革と雄藩の台頭 110(87) 45 列強の接近 112(89)

4 近現代 ————— 114(91)

- 46 開国と貿易の開始 114(91) 47 幕末の政局 116(93)
 48 明治維新の諸政策 118(95) 49 地租改正と殖産興業 120(97)
 50 自由民権運動 122(100) 51 憲法制定と諸法典の編纂 124(102)
 52 初期議会と日清戦後の政局 126(104) 53 条約改正 128(106)
 54 近代の日朝関係 129(107) 55 産業革命 131(109)
 56 明治期の社会運動 133(111) 57 政党政治の確立 134(113)
 58 明治・大正期の日中関係 137(115) 59 協調外交と強硬外交 139(117)
 60 大正・昭和期の経済史 141(119)
 61 満州事変・日中戦争・太平洋戦争 142(121)
 62 ファシズムの進展と思想弾圧 145(124) 63 戦時体制の確立 148(126)
 64 戦後改革 149(127) 65 政党政治の復活と占領政策の転換 150(129)
 66 戦後の政治と外交 152(131) 67 戦後の経済 154(133)
 68 近代の美術 156(136) 69 近現代の文化総合 157(137)

第Ⅱ部

通時代テーマ史 ————— 161(141)

- 1 法制史 162(142) 2 京都の歴史 164(145)
 3 琉球(沖縄)・蝦夷地(北海道)の歴史 166(147)
 4 地図使用の問題 169(150) 5 女性史 171(152)
 6 教育史 174(155) 7 史学史 176(159)